

フレキシブル回路基板用圧延銅箔の生産能力増強について

新日鉱グループ傘下の日鉱金属株式会社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目, 社長:大木和雄)ならびに株式会社日鉱マテリアルズ(本社:東京都港区虎ノ門二丁目, 社長:岡田昌徳)は、このたび、フレキシブル回路基板用材料として使用される圧延銅箔の生産能力を増強することいたしました。

圧延銅箔は、その高強度、高屈曲性、低表面粗度等の優れた特性により、携帯電話、デジタルカメラ、ハードディスクドライブ、DVD等IT関連機器の小型化・薄型化、クラムシェル化(折りたたみ型)、高速大容量情報伝達化等の市場ニーズに応えるものとして、今後一段の需要増大が予想されております。

新日鉱グループにおいては、日鉱金属が上流工程(銅原料ならびに圧延原箔を生産)を、日鉱マテリアルズが下流工程(トリートメント加工(圧延原箔を表面処理))をそれぞれ担い、グループ一貫生産体制のもと、世界シェアの約80%(当社推定)を占めております。

日鉱金属ならびに日鉱マテリアルズの生産能力増強の具体的内容は以下のとおりであります。

- 日鉱金属 倉見工場(神奈川県高座郡)において、銅箔をはじめとする各種金属箔用圧延機を増強する。(投資額約17億円)
- 日鉱マテリアルズ 日鉱マテリアルズにおいては、トリートメント設備を増強し、生産能力を現行の約2,000千m/月から約4,000千m/月にする。また、子会社のGNFフィリピン(日鉱マテリアルズ100%出資)において、従来の電解銅箔の生産ラインを圧延銅箔生産ラインに変更して約1,000千m/月のラインを立ち上げる。これにより、日鉱マテリアルズグループ全体の生産能力を現行の約2,000千m/月から約5,000千m/月に増強する。(投資額約16億円)

なお、上述の生産能力増強については、それぞれ順次着工し、最終的な本格稼働は平成16年7月を予定しております。

日鉱金属および日鉱マテリアルズは、今般の生産能力の増強に加え、ユーザーニーズに応え、圧延銅箔事業の競争力を一段と高めるとともに、今後も両社の緊密な連携の下、新日鉱グループとしてのシナジーを発揮して、市場動向、顧客ニーズ等を踏まえた迅速・的確な対応を図り、市場の拡大に応じてまいります。